

平成 30 年度公式試合申し合わせ事項

平成 30 年 8 月 30 日
神奈川県ラグビーフットボール協会
普及育成委員会 R S 担当 ジュニア部会

1. 基本原則として、ワールドラグビー（以下 WR）が定める「WR 競技規則 2016（含む『19 歳未満標準競技規則』）に準拠し、日本ラグビーフットボール協会 2015 年制定の U15 ジュニアラグビー競技規則（以下 Jr ラグビー規則と表記）に則り、実施する。
2. チーム（カテゴリ）構成
全てのチーム中学生で構成することを前提に
A チーム（カテゴリ）は 2、3 年生、
B チーム（カテゴリ）は 2 年生主体
C チーム（カテゴリ）は 1 年生（U13）で構成。
女子は、どのチーム（カテゴリ）に参加可能。
尚、B チームに 3 年生が出場する場合は、グラウンド内に 1 年生が出場していない場合についてのみ出場することができる。
また C チームは原則 U13 にて構成するものとするが、人数不足等でやむを得ず 2 年生が出場する場合、事前に対戦チームの承諾を得た上で、A チームの試合に出場していない選手に限り、出場可とする。
3. 競技時間は、A チームは 20 分ハーフとするが、1 チームが 1 日 2 試合を行う場合の競技時間は最大 17 分ハーフとする。
B チーム及び C チームは 15 分ハーフとする。
いずれもハーフタイムは 5 分以内とする。
（※ Jr ラグビー規則、U15、U14・13 の試合時間に準拠）
4. 選手交代
・選手の交代は子供達を多く試合に出すことを主眼とし交代人数は制限しない。
・コンタクトレンズ交換・脱着のための一時交替は、安全 確保のため認めることとする。
・選手交代は本部席に申し出る。本部役員は電子音笛等にてレフリーに合図し交代させる。
その他選手交代については、Jr ラグビー規則に準じるものとする。
（対戦チームのベンチは本部席両サイドとする。）
5. コーチング
・監督、コーチ 2 名程度のコールによる指示は認める。
・監督は、トライ後等の時間に主将を呼んで指示することは出来る。
・監督、コーチは試合中にグラウンド（インゴール含む）に入って指示することは出来ない。指示は自陣のベンチ側とする。相手側ベンチ前には行かない。
・特にタッチジャッジが指示することは禁止する。
・試合中の給水対応を行うコーチからの指示も禁止する。
・**ベンチエリア外からの指示は厳禁とする。**
6. 安全対策
・セーフティーアシスタント（以下 SA と表記）及び同等の資格を有する人材を各チームで必ず確保する。確保出来ないチームは不戦敗とする。
試合開始前のトス実施前までに、各チームより運営

- 本部への提示を義務づけ、本部は確認を実施する。尚、SA を両チーム確保できない場合、試合実施を認めない。一方のチームのみ確保できる場合、オープンゲームとなる。実施可否については本部と協議の上決定する。
- ・けが/事故等の発生時は、当該チーム以外のメディカル関係者についても対応する様配慮する。
 - ・子供のけがに迅速に対応することを一番の目的とし監督、コーチがグラウンドに入っても良い。
 - ・SA は、脳震盪の疑いのある選手に対し、レフリー、本部と連携し迅速に判断してフォローする。頭や胸を強打し気分が悪いと訴えた時は速やかに救急車を手配し迅速な対応をお願いする。
 - ・各ラグビースクール（以下 RS）は、重症傷害報告書、脳震盪及びその処置経過について、別紙によりジュニア部会長及び安全対策部会長にその都度報告し、ジュニア部会長は普及育成委員会 RS 担当委員長へ報告する。
 - ・脳震盪の場合は、日本協会通達の通り 23 日間出場できないこととする。（場合によっては本部役員が直接選手の状態を確認することがある。）
7. ゲーム中断時の給水を認める。給水はプラスチックボトルのみとする。ヤカン、ガラス瓶、コップ禁止。給水のための活動エリアに制限は設けず、試合の進行に支障の無い限り自由に給水を可能とする。
 8. レフリーについては競技日程が確定した段階で **A チーム戦については**、レフリー部会にジュニア部会長より派遣を依頼する。
当日変更の場合は現場にて監督協議にて選定する。
 9. プレーヤーの服装（スタイル）
・襟を入れたり、ジャージがはだけたり、ストッキングがずり落ちた状態でプレーさせないよう各 RS にて指導すること。レフリーは指摘注意することができる。
・同一 RS 内ではパンツ、ストッキングの色を統一すること。尚、ヘッドキャップについては、可能な限り同一チーム/同色を基本とする。
・ジャージは必ず背番号付きの物とし、対戦チーム同士が同系色とならないよう予めチーム間で調整する事。
・試合開始時のスターティングメンバーについては必ず 1~12 の番号付ジャージを着用する事。
但し、何等かの事情に因りどうしても 1~12 以外の番号付ジャージを着用する場合には必ず試合開始前に本部に報告する事とする。
・タッチジャッジについても、レフリーに準じたスタイルとする（ジャージ、短パン、ストッキングを着用）。ただし、ウインドブレーカー等の防寒着の着用は認める。
 10. 試合の停滞を防ぐため
・試合球は原則 3 ボールにて実施する。当該各チーム 1 個用意し、当日の本部運営当番スクールでグラウンド提供スクール以外のチームが予備球 1 個を用意する。
・各スクールはボール係を 2 名、キック係を 1 名選任し迅速に対応する。

[ここに入力]

- ・ボール係は、自チーム左側のタッチラインに沿って位置する。
 - ・試合当日、ボール係が用意できない時は、対戦相手の監督と相談の上、協力要請すること。
 - ・ボール係の私服及びサングラス等の参加は禁ずる。
 - ・ゴールキックの際にキッカーはヘッドキャップをはずさないこと。
11. タッチラインから外へ約 2mのスペースを可能な限り確保し、タッチジャッジ、SA、監督、コーチ、ボール係、キックティ係以外の立入りを控える様指導する。(ハーフウェイラインを挟む 10m~10mの間にはタッチジャッジ、SA、ボール係を除く関係者以外は立ち入れない。)
12. グランド準備については、当番 RS を中心に協力の下実施する。(ライン引き等は当番 RS にて準備する。)
13. 試合結果 (スコア) について
- ・本部席にて当番 RS が記録する。
 - ・当番 RS はジュニア部会長・副部会長 (競技運営担当) へ提出し、広報部会長へ報告される。
14. 試合開始前実施事項
- ・ドレスチェックは各試合の 30 分前にレフリーに因り実施する。内容は Jr ラグビー規則に則しているかを中心に行う。
 - ＜ドレスチェック項目＞
 - ・スパイクポイント
 - ・手の爪
 - ・ヘッドキャップ
 - ・マウスピース
 - ・ショルダーパット (使用者のみ)
 - ・トスは、第 1 試合は試合開始の 15 分前、その他は前試合のハーフタイムに、両チームの主将・タッチジャッジ・SA が本部席前に集合し、レフリー立会いのものと行う。尚、再三の呼びかけに応じないチームがある場合、集合しているチームに選択権を与える
 - ・SA はトス実施時に選手に帯同し、認定証を携帯し本部へ提示する。尚、何らかの理由により認定証を提示できない場合、事前に認定証番号、氏名を本部へ登録済みである SA は、本部判断のもと認定証の提示と同等に扱う。
15. 規定の人数が集まらない時は、不戦敗とする。但し、試合については双方の監督・本部役員了承の下で話し合い、人数を借用するか、人数減での試合実施、もしくは棄権とする。
16. 不正なプレーによる一時的退出 (=シンビン) の運用について
- ・シンビンの適用は、WR 競技規則・Jr ラグビー規則に則して行う。
 - ・シンビンを科せられた選手は、本部席前に設置されたシンビン用の椅子に座る。
 - ・シンビンの時間は、本部役員が管理する。
 - ・試合中に発生したシンビンは、担当レフリーが別紙様式に記入し、速やかに電子メールまたはファックスによりジュニア部会長及びレフリー部会長に報告する。ジュニア部会長は普及育成委員会 RS 担当委員長へ報告する。
 - ・累積ペナルティーによるシンビンを探る場合は、そ
- [ここに入力]
- の旨キャプテンに予告し選手全員に周知させる時間を与える。この場合、試合時間の時計は止めない。
17. 順位の決定について
- ・Aチームは、大会参加チーム数によりリーグ戦方式・トーナメント方式を組合せ、その結果により順位を決定する。
 - ・Bチーム、Cチーム (U13) の順位決定は行わない。
- ◆リーグ戦方式
- ①全ての試合の勝利数が多いチーム
 - ②勝利数が同じ場合には、全ての試合の総得失点差数が多いチーム
 - ③万一、不戦敗チーム (途中棄権を含む。) が発生した場合は、そのチームとの対戦成績を除いて総得失点差を計算する。不戦敗を出したチームは同リーグの中で最下位とする。
 - ※予選リーグと決勝リーグが別々に行われる場合は、各リーグ戦の中での最下位とする。
 - ④勝利数及び総得失点差数が同じ場合は、下記の項目の順により決定する。
 - ・トライ数が多いチーム
 - ・トライ後のコンバートの成功数が多いチーム
 - ・上記に決定しない場合は、抽選による。
 <抽選の方法>
 - i. 本部席において全てのリーグ戦終了後、速かに行なう。
 - ii. 本部役員は、該当するチーム数分の封筒を用意し、「勝敗」「順位」「進出先リーグ/トーナメント名」など記入した用紙を封筒に入れる。
 - iii. はじめにトス (じゃんけん) をし、勝ったチームから封筒を選ぶ。
- ◆トーナメント方式
- ①試合毎の勝敗により順位を決定する。
 - ②得失点数が同じ場合は、下記の項目の順に因り決定する。
 - ・トライ数が多いチーム
 - ・トライ後のコンバートの成功数が多いチーム
 - ・上記に決定しない場合は、抽選による。
 又、順位決定トーナメントの最終戦が同点の場合は、両チームを優勝、または同位とし抽選は行わない。
 - ③万一、不戦敗チーム (途中棄権を含む) が発生した場合、不戦敗を出したチームは同トーナメントの中で最下位とする。
- ・両チーム優勝や同位チームが出た場合、次の大会のブロック分けを行う際に抽選にて順位を決定する。
 - ・以下に該当する場合、大会への新規参加として取り扱う。
 - i. 合同チームを構成するスクールが変更 (離脱、追加) された場合
 - ii. 合同チームから脱退し、単独チームとなった場合
 - iii. 新に合同チームを編成する場合
18. アシスタントレフリー及びタッチジャッジ
準決勝戦及び決勝戦に措いては可能な限りアシスタントレフリー制を導入する。それ以外の試合については、タッチジャッジ制とする。
19. ウォーターブレイク
- ・レフリーの判断により試合中のウォーターブレイクを

認める。時間的には1分程度とする。

- ・この時の給水はウォーター係がフィールド内へ給水ボトルを持ち込み選手に給水を行い指導者はフィールド内に立ち入る事を禁止する。(例外として、ウォーター係をする選手がおらず止むを得ず指導者がウォーター係を行う場合には給水ボトルの持ち込みに関しては可とするが、指示・指導等を行う行為は禁止する。)

20. 棄権（不戦敗）時の成績について

- ・残念ながら棄権となったチームは、棄権となった対象のリーグ又はトーナメント内で順位が確定する。
- ・棄権した試合が含まれるリーグ又はトーナメントの最下位となる。複数チームが棄権している場合、抽選とする。

21. アフターマッチファンクション

- ・試合終了後に、ノーサイドの精神の育成(対戦チーム、レジャーに対する感謝の気持ち)を目的に行う。
<実施内容>
 - ・各チームキャプテンのコメント
 - ・各ヘッドコーチのコメント
 - ・レジャーの総評

尚、Aチーム戦は必須で実施する。BC戦も原則は実施するが、当日の試合スケジュール、天候等を考慮し本部判断で実施有無を判断できるものとする。

22. 各会場に当番RSを設置する。

参加各RSの持ち回りで実施する。

当番RSの役割は、以下とする。

- ・本部でのスコアラーの記録
- ・選手交代時の記録とレジャーへの通知
- ・SA資格の確認
- ・シンビン選手の時間管理
- ・駐車場の整理
- ・グラウンド準備
- ・他

23. 試合会場に使用上の注意事項

以下のグラウンドに自動車を使用して移動する場合の車両台数を規定する。尚、以下に規定の無いグラウンドについても、出来るだけ公共交通機関を利用し、自動車を利用する場合でも、乗り合い等を検討し、周辺住民に迷惑の掛からないよう、検討すること

- ・大津グラウンド
各スクール用具運搬車両2台までとする。

24. メンバー表の運用について

- ・本部へ提出するメンバー表の様式を統一する。
- ・メンバー表には、フロントローとして適切な指導を受け相応するスキルを持つ選手である事が判断出来る様に背番号欄を丸印で囲み表記する事。尚、Jrラグビー規則に則し、フロントロー選手は5名以上用意する事。
- ・メンバー表は必要に応じ、本部へ申し入れ対戦相手チームのものを確認する事ができる。尚、試合終了後はジュニア部会長・競技運営担当のジュニア副部会長が管理し、当該年度は保管し、各チームからの要請に応じて公開できるものとする。

25. 試合観戦（試合中）のマナーについて

- ・指導者、チーム引率者、チーム関係者は、選手への過度な叱咤激励や指示は控える。
- ・レジャーのジャッジや、相手方選手への批判や誹謗中傷は厳に慎む事。

その他、定めなき事項については随時ジュニ部会にて協議し決定し、本書に追記していく。

以上

登録者見舞金制度／脳振盪 ガイドライン／重症傷害報告書

選手の怪我及び障害の程度により対応方法が規定されております。

以下の URL に対処方法、フロー、申請資料が格納されておりますので各スクールご担当者にて確認いただけますようお願いいたします。

<https://www.rugby-japan.jp/future/documents/>

また、登録者見舞金制度／脳振盪 ガイドライン／重症傷害報告に該当する怪我及び障害が発生したチームは、日本協会への申請と併せて、神奈川県ラグビー協会-普及育成委員会-安全部会宛て「神奈川 RS 重傷事故報告メモ」を作成し送付のほどお願いいたします。

オフ・シンビン報告書

平成____年____月____日

レフり-部会長 殿

ジュニア部会長 殿

協会：____協会公認 レフり-氏名：____

日時および天候	平成____年____月____日 () ____ : ____ K. O. (天候 : ____)
場所 (グラウンド名)	_____
試合名 (種別) / 協会	スクールジュニア県大会 / 神奈川県
チーム名 / 選手名	_____ / _____
プレイヤーのポジション (背番号)	_____ ()
試合及び結果 (チーム名 (得点))	_____ () v s _____ ()
事象が発生した時間帯	前半 / 後半 ____分 (前・後半のどちらかに○)
違反の性質 (違反した条文)	_____ (競技規則 第____条 _____に該当する。)
報告事項	

注：1 報告事項は、できる限り詳しく記入する。

2 mail または F A X により速やかに報告する。